

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年7月10日

【評価実施概要】

事業所番号	鹿児島県指定 第4670103441号		
法人名	有限会社 エムエー企画		
事業所名	グループホーム ほのぼの家族の里		
所在地	鹿児島県 鹿児島市 吉野町 6013番地 1 (電話) 099-295-8680		
評価機関名	NPO法人 自立支援センターかごしま 福祉サービス評価機構		
所在地	鹿児島市星ヶ峯4-2-6		
訪問調査日	平成21年7月10日	評価確定日	平成21年8月1日

【情報提供票より】 (平成 21年 5月 31日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 15年 12月 11日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	18 人	常勤 17人 非常勤 1人 常勤換算	17.5人

(2) 建物概要

建物構造	木造	造り
	2階建ての	1～2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	16,500 円	
敷金	有(円) 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	300 円
	夕食	400 円	おやつ	円
	または1日当たり 1,000 円			

(4) 利用者の概要 (H20年 5月 31日現在)

利用者人数	18 名	男性	3 名	女性	15 名
要介護1	2 名	要介護2	2 名		
要介護3	6 名	要介護4	7 名		
要介護5	1 名	要支援2			
年齢	平均 88 歳	最低	81 歳	最高	95 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人吉野生協クリニック ・つかさ歯科 ・老人保健施設ろうけん青空
---------	------------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

郊外の高台に位置し、200坪の広大な敷地には芝生の庭や四季の花・野菜が植えられ、入居者は自由に中庭の散歩や体操・お茶会を楽しむ等、自然に囲まれた環境の中で生活を楽しんでいる。職員は入居者の尊厳を守り、安心して生活ができるホームの構築を目指して、管理者を中心に密度の高いチームワークで取り組んでいる。入居者とのコミュニケーションの中で週1度の回想法を実施し、経験したことを回想しながら気分転換を図っている。また、中庭を地域に開放してフリーマーケットを開催し地域との交流を行っている。同業者間の交流も深め、職員の相互研鑽を通じてサービスの質の向上にも務めている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	同業者との交流を通じた向上に関しては、3地区で「吉野会」を設立したり、近隣のグループホームとの相互訪問を計画するなど、積極的に取り組まれている。災害時の備蓄も準備され改善されている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	運営者・管理者・職員は、自己評価や外部評価の意義や活用方法について話し合い、自己評価を全職員で行い、評価結果をもとに改善に向け、検討しながらサービスの質の確保に活かせるよう取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	会議では、入居者の状況や活動内容の報告、自己評価・外部評価の結果を報告している。委員から事故防止についての意見が出され、対策について話し合う等、サービスの質向上に活かしている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	面会時や家族会・運営推進会議・連絡ノートを活用し、家族の意見や要望を出してもらうよう働きかけている。出された意見は話し合いをもち、解決に向けた取り組みを行っている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域の夏祭りや小学校の運動会・バザーに参加したり、小・中学生の体験学習の受け入れや、避難訓練時の近隣住民への協力要請を行う等、地域との交流に努めている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設時より、地域の中で本来の自分を取り戻し、自由と尊厳を大切に、安らかに過ごせる場所作りを支援するため、事業所独自の理念を作り上げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は室内に掲示し、毎日の朝礼やミーティング時に唱和し理念の共有や理解を深めながら、日々のケアに反映するよう取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の夏祭りや小学校の運動会・バザーへの参加を行っている。また、小・中学校の体験学習の受け入れを行う等、地元の人々との交流を図っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者は、評価の意義を職員に説明し全職員で自己評価を行っている。昨年の外部評価の改善項目についても、検討改善が図られている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では、入居者の状況や活動内容報告、自己評価・外部評価の結果報告の他、委員の方からも事故防止についての意見が出され、対策について話し合う等、サービスの向上に活かせるよう取り組んでいる。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当者とは、入居者の状況等について情報交換や相談を行いながら連携を図っている。市の介護相談員も受け入れ、サービスの質向上の取り組みがなされている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時に入居者の暮らしぶりや健康状態等の報告をしている。また、個人別の連絡ノートを用いての情報交換や事業所便りの空欄に最近の状況を記入し送付している。金銭管理や職員の異動も報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や家族会・運営推進会議・連絡ノートを活用し、家族の意見や要望を出してもらうよう働きかけている。出された意見は話し合いをもち、解決に向けた取り組みを行っている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	馴染みの関係を重視したケアを行っている。やむを得ず異動があった場合は、入居者や家族に紹介して信頼関係が築けるよう配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修は毎月1回テーマを決め、各ユニット毎に勉強会を実施している。外部研修は当日勤務扱いとし、常勤・非常勤を問わず交替で参加し伝達講習も行っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に加入し、研修での交流を図っている。同業者間の交流を深める為、昨年「吉野会」を立ち上げたり、近隣のグループホームとの相互訪問を計画し、サービスの質向上の取り組みを行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居相談時には、なるべく本人も来所してもらい、ホームの見学をしたり場の雰囲気に馴染めるよう配慮している。入居前には職員が訪問して本人と面会し、親睦を深めながら安心して入居できるよう支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は入居者に対して、人生の先輩としての共通認識のもとで、調理方法や食材の切り方・梅干し作りなど、手本を示してもらえるような場面をつくりながら、日常の中で一緒に過ごし支え合う関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族からの情報や日々の生活の中で、本人の意向や希望を把握するよう努めている。月1回入居者による話し合いの場を設け、意見がない場合はテーマを出し希望を引き出す工夫を行っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族の意向や希望を聞いたり、毎月ケアカンファレンスを持ち、職員の気づきや意見交換を行い、個別に応じた具体的な介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は3ヶ月ごとの見直しを行っている。状態変化時はその都度見直しを行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族と話し合いながら、本人の意向に沿った通院支援や外出時の移送・手続きの代行を行っている。また、宿泊希望の家族には寝具や食事を提供するなど柔軟に対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者及び家族が希望するかかりつけ医での受診となっており、適切な医療が受けられるよう支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	「重度化した場合の対応に関する指針」や同意書を作成し、医療機関との連携体制もとれている。重度化した場合は主治医や職員が家族と話し合いをもち、方針の共有化を行い支援する体制作りができています。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	管理者は、入居者のプライドを傷つけたり、プライバシーを損なわないような言葉使いや声かけの仕方・援助方法を勉強会やミーティングの場で学習会を開き、不適切な場面ではその都度指導を行っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の状態や希望に応じて、朝の体操後に庭でお茶会をしたり、食事や入浴の時間をずらしたり、臨機応変に柔軟な対応を行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者個々のレベルに合わせて、調理・配膳・下膳・後片付けなど、できる事を一緒に行いながら食事を楽しめるよう支援している。また、菜園で収穫した野菜も食卓へのぼり、季節を味わえるように取り組み、入居者に好評である。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日や時間・回数などは入居者の希望に合わせて、楽しく入浴できる支援をしている。入浴拒否のある方は、無理強いせず対応を工夫しながら、週3回の入浴を楽しめるよう支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者の過去の経験や希望を考慮しながら、調理・園芸・散歩・買い物・手芸・フリーマーケット参加・もちつき大会等、生活を楽しめるよう支援している。また、週1回の回想法で昔の出来事を回想しながら談話し、気分転換を図っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ホーム周辺の散歩や買い物の他、花見・ソーメン流し・水族館の見学など、外出の機会を多く作っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員の見守りと気配りを重視し、日中は玄関の鍵をかけずに自由な暮らしを支援している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	地域の方にも協力要請を行い、年2回の避難訓練を実施している。消防団員や救急隊員の家族の協力をもらい3ヶ月に1回AEDや救急蘇生の講習も行っている。災害時の備蓄もある。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取状況が毎日記録されている。食事の摂取状況に合わせて食事形態も工夫し、高齢者の食事について勉強会を行っている。1週間分の献立を勉強会で偏りがいいか検討するなど栄養バランスに配慮している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	中庭は芝生と花壇・菜園があり、季節の花や野菜が植えられ、テラスやテーブルもある。共用空間は明るく、入居者と一緒に作った作品が展示されている。ソファもあり、ゆったりと居心地よく過ごせるよう配慮している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には馴染みのテレビ・ラジオ・本・ソファが持ち込まれ、家族の写真等を飾り、個性的で本人が居心地よく過ごせるよう工夫している。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票(様式1)を添付すること。